

▶ 奈良市自然環境調査について

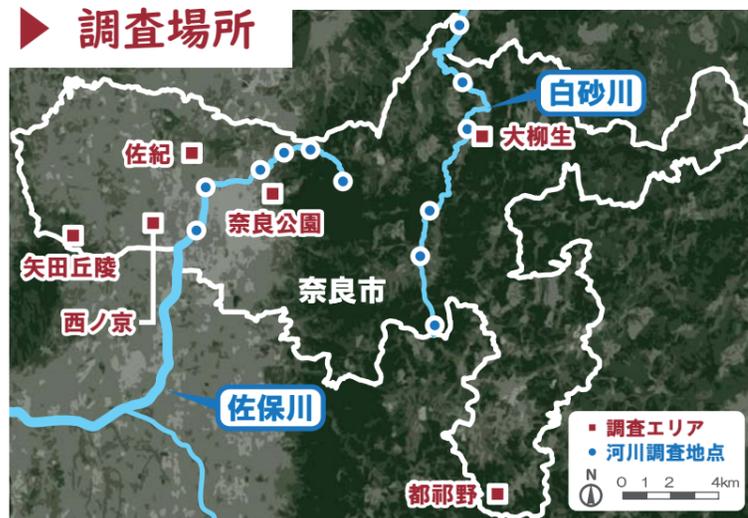
奈良市では、平成24年3月に「奈良市環境基本計画（改訂版）」を策定し、令和3年度をもって計画期間が満了となりました。そこで、次なる計画策定のため、令和2～3年度に奈良市の自然環境、特に生物の生息状況を調べました。

調査場所は、奈良盆地に広がる里山や市街地、奈良公園、笠置山地の田園地帯や森林です。河川では、佐保川と白砂川で調査を行いました。



昆虫調査の様子

▶ 調査場所



▶ 調査結果の概要

調査で確認された生物の種数

分類群\調査場所	奈良公園	佐紀	矢田丘陵	大柳生	都祁野	西ノ京	佐保川	白砂川	合計
植物	240 (12)	319 (10)	380 (5)	390 (7)	367 (7)	285 (0)	79 (0)	46 (0)	880 (36)
哺乳類	12 (1)	6 (1)	11 (0)	16 (2)	17 (3)	5 (1)	—	—	19 (3)
鳥類	53 (11)	65 (14)	66 (16)	52 (12)	57 (16)	40 (5)	—	—	98 (32)
両生類・爬虫類	9 (5)	8 (3)	13 (7)	13 (6)	10 (7)	9 (3)	9 (6)	10 (6)	25 (17)
魚類	1 (0)	5 (1)	3 (1)	1 (1)	1 (1)	2 (1)	15 (2)	15 (4)	21 (5)
昆虫類	186 (10)	171 (4)	212 (7)	200 (7)	197 (7)	138 (0)	82 (2)	68 (2)	730 (29)
プランクトン類	52 (0)	75 (0)	65 (0)	50 (0)	46 (0)	73 (0)	—	—	125 (0)
その他水生生物	—	—	—	—	—	—	16 (0)	16 (1)	19 (1)
合計	553 (39)	649 (33)	750 (36)	722 (35)	695 (41)	552 (10)	201 (10)	155 (13)	1,917 (123)

注) 表中の数値は調査で確認された種数を示します。()内の数値は、確認された種数のうち奈良県や環境省などで選定されている絶滅危惧種や希少種、郷土種などの種数を示します。

約1年間の調査により、1,917種の生物を確認しました。この中には絶滅危惧種や希少種など123種が含まれます。これらの多くは、水田や草地、里山林など身近な環境のほか、古墳や社寺林などの森林で確認されました。

10年前の調査結果と比較すると、森林に生息する鳥類の確認種数は増加傾向に、水辺に生息する鳥類では減少傾向にありました。哺乳類や両生類・爬虫類、昆虫類(トンボ類とチョウ類)の確認種数に大きな変化はありませんでした。

奈良市では、様々な環境が連続的に成立することで市全体の生物多様性を高めていると考えられます。人の活動と密接に関わる環境で育まれる生物も多く、人と生物の共存が大切であるといえます。



水田と里山林(矢田丘陵)



森林(大柳生)

各調査場所での生物の確認状況

【奈良公園】人の影響を受けていない常緑樹を主体とする広大な自然林が残っています。自然度の高い環境に依存する生物が生息しています。一方で、林床の植物はシカにより食べつくされ、シカが食べない植物が主に生育しています。

【佐紀】水上池にはカモ類などの水鳥が飛来し、渡り鳥たちの越冬場所になっています。古墳の堀ではトンボ類や水草も見られます。

【矢田丘陵】コナラやアカマツなどを中心とする里山林が残っています。農耕地や草地、林内のため池など様々な環境があり、最も多くの生物が確認されました。一方で里山の管理放棄、ナラやマツ枯れにより、生物多様性が低下している場所もあります。

【大柳生】ピオトープ池や水田、素掘りの水路では、水生昆虫や両生類などの希少な水生生物が見られます。一方で竹林の拡大等により、生物多様性が低下している場所もあります。

【都祁野】山地性の哺乳類や鳥類が多く生息しています。集落付近の水田では、カエル類や近年減少傾向にあるアカトンボ類などの繁殖場所になっています。

【西ノ京】人工的な環境を利用することができる鳥類や昆虫類が多く生息しています。街路樹や公園の草地、住宅の庭などの身近な緑地を利用しているようです。

【佐保川】奈良市唯一の滝を源流とし、田園地帯から市街地へと流れます。魚類はカワムツやカワヨシノボリなどが生息しています。中流域ではゲンジボタルが見られます。

【白砂川】勾配が大きく流れが速い場所が多い河川です。カワムツやカワヨシノボリが多く生息しており、流れが速い河川を好むナガシカマツカやカシカも見られます。

▶ 生物多様性を保全するために

農村地域では農耕地の放棄、シカやイノシシによる林床の植物への採食圧、マツ枯れやナラ枯れ、管理放棄による里山の荒廃や竹林の拡大等が見られるなど、人が手をかけることで守られてきた自然環境の保全が必要です。また、外来生物が奈良盆地から笠置山地へ分布を広げており、在来生物への悪影響が懸念されることから、これらの動向に注意するとともに防除など計画的な対応が必要です。水辺環境では、河川改修や圃場整備などの際には、水辺から陸地への連続性の保持や水生生物の生態に配慮した設計・工法を実施することが重要です。

▶ 奈良市の自然環境と主な動植物

注) 図中の太字は奈良県や環境省などで選定されている絶滅危惧種や希少種、郷土種などの種数を示します。

